

西日本司祭団ソフトボール大会



ホームランを放つ長崎 壮神父!



コロナ禍のため4年間実施できなかった西日本ソフトボール大会が、5月14日9時半から淀川河川公園で行われた。

快晴に快音響く

再会に笑顔こぼれる交流の場

今年は初めての大阪開催となり、大阪高松教区から14人、長崎・大分・広島・福岡からは約50人の参加があった。ゲームは5回までで、勝ち抜きのトーナメント戦形式。大阪高松教区は広島教区と対戦した。投手は梅崎隆一神父、捕手はブラザー阿部光一のバッテリーで、1塁を酒井俊弘司教その他のポジションは若手中堅の司祭らで固めた。長崎壮神父が2本、渡辺徹郎神父とサワリムツトウ・ステファン神父がそれぞれ1本のホームラン、朴起徳神父がタイムリーヒットを放ち、17対5でやぶった。決勝は、毎年優勝している強豪の長崎教区と対戦。すでに大分・福岡に大差をつけて勝ち進んできた長崎教区チームは、猛打線が爆発。15点以上の点差をあけられ、かうじて1点を返したものの、3回でワールドゲームとなった。



試合終了後には、互いの健闘をたたえあう懇親会が行われた。前田万葉大司教は「プロ野球と草野球?」ほどの違いがあったものの、こうして一緒に楽しい時を過ごせたことを喜び、今後もこのような交流が続くことを願うと挨拶した。来年は福岡教区が開催担当となる予定である。



7

2024

発行所
大阪市中央区玉造2-24-22
カトリック大阪高松大司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700 (代表)
TEL (06) 6946-3223 (直通)
FAX (06) 6946-3224 (直通)
E-mail: jho@osaka.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」あります。<無料>
※ご希望の場合は下記まで申込み
「点訳版(点字本)」
教区報 ☎06-6946-3223 (直通)
☎06-6946-3224 (直通)
「音訳(テープ・デジ)」
山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ 2024年教区ブロック担当者 覧 (2面)
- ☆ 「聖年・万博委員会」設立
- ☆ 司牧者からの一冊
- ☆ ガザから私たちがへのメッセージ (3面)
- ☆ 堺教会100周年
- ☆ 2023年度教区会計報告 (45面)
- ☆ 聞かせてください神さまと出会った時のこと
- ☆ 聖霊に動かされた画家
- ☆ 広島教区へのEメールアドレス=jho@osaka.catholic.jp
- ☆ (7面) (6面)

「教区報」原稿・資料等の締切は前々月末です。

甲山墓参 聖母月の司祭納骨式



説教をする大司教と祭壇前に置かれた帰天司祭の遺影

5月22日10時半より甲山墓園で、帰天された教区司教・司祭および納骨者のために追悼ミサがさげられた。今年は梅原彰神父、フスト・セグラ神父の司祭納骨式も行われた。大阪高松大司教区になり初めての墓参ミサは晴天に恵まれ、25人の司祭と約130人の参列者が帰天司祭の安らかな眠りを祈った。

主司式の前田万葉大司教は、二人の司祭をしのびつつ、福音にあるラザロの命がある(に)触れ、たとえ死んでも生きるというみ言葉をかみしめながら「聖母月生きるも死ぬも神のもの」と句を詠まれた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない」

フスト・セグラ神父は2023年3月5日帰天、梅原彰神父は同年11月16日帰天。すべてを神にささげる司祭職という厳かな神秘に対して、神への感謝と、司祭たちへの自戒をうながした。

帰天司祭のご遺骨が入った遺骨袋は大司教の手から墓園の職員に手渡され、地下へと納骨された。

地上での長旅を終え、(大阪カテドラルの納骨堂でのしぼしの休憩も含め)「大病を患いながらもそれを乗り越えたくさんの方から慕われたお二人は『奇跡の人』であった。大阪高松大司教区に必要な恵みを神さまにとりついでくださいますように祈りましょう」と締めくくった。

平和旬間 2024-10 Days for Peace

いまこそ平和を 苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう

Peace, now Listen & respond to the sufferers

社会福音化部門長 酒井俊弘補佐司教

今年のテーマは、ウクライナ、ガザにおける戦闘など、現代の世界情勢を意識したものです。1981年訪日した聖ヨハネ・パウロ2世は「広島平和アピール」の最後に祈りました。

「神よ、わたしの声を聞いて下さい。それは個人の間、また国家の間でなされたすべての戦争と暴力の犠牲者たちの声だからです。神よ、わたしの声を聞いてください。それは人びとが武器と戦争に信頼をおくとき、いの一番に犠牲者として苦しみ、また苦しむであろうすべての子どもたちの声だからです」。

今年も巡ってくる平和旬間において、特に、戦争や、武力による争いによって、愛する人を失い、悲しみ、苦しむ人びとの声に耳を傾け、死と破壊をもたらす戦争が1日も早く終わることを祈りましょう。そして単なる願望でなく、今、自分自身の置かれた場で、キリストの平和を実現するために何が出来るかを共に考え、行動に移しましょう。

カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者 募集

大阪高松教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただきます。インターネットでもご覧になれます。

資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 総務課 管理部門 ☎06-6941-9705



リスナーの方 募集中!

小さきテレジアの会

「大阪高松教区報」を音訳し、データCDに録音して、大阪高松教区の視覚障害者の方々にお送りしています。データCDは、プレストーク・パソコン・MP3対応のCDラジカセで聞くことができます。

音訳というのは、一般に認識されている朗読とは、すこし違います。書かれている内容を正確に、あまり感情をこめすぎずに、ニュースを読むアナウンサーのイメージです。

問合せ 夙川教会小さきテレジアの会 ☎ 0798-22-1649 Fax 0798-34-3585 担当: 音訳(デジ)山口

2024年 地区長・委員長担当者 ・小教区ブロック司牧人事表

教区のみなさま

2024年6月7日
大司教 前田万葉

地区長・委員長・担当者について

十主の平和

昨年の今頃は梅雨入りをしていましたが、今年の梅雨はどこへいったのかと思うような天候が日々続いています、いかがお過ごしでしょうか。

さて、2023年8月15日に教皇フランシスコの教令により、カトリック大阪高松大司教区の歩みが始まりました。まだまだ、整えていかなければならないことは多いのですが、目の前にある課題をひとつずつ乗り越えていき、信仰の喜びを感じれる教区となるようにみなさまとともに考え進めていきますのでご協力をよろしくお願いいたします。

みなさまとともに考え、大阪高松教区として、教区内を12の地区に分けることとしました。旧大阪教区8地区と旧高松教区4地区になります。区分けなどの変更はありません。各地区には地区長を置き、地区長のもとで共に歩んでいただけることを願っています。地区長は、同時に司祭評議会評議員となります。また、委員長及び担当者を発表いたします。地区長や委員長・担当者のもとで、それぞれの活動を充実させて、旧教区間の交わりの機会を持っていただき、それぞれの思いを分かち合いながらシノドスの教会となるように努めていただきますようお願い申し上げます。任期は、2024年6月1日～2026年5月31日迄を任期といたします。新しく地区長と委員長及び担当者になれる神父様方、どうぞよろしく願いいたします。

今回の一覧とは別に期間限定で「聖年・万博委員会」を発足することといたしました。2025年の聖年を盛り上げていただくことと、大阪・関西万博で来阪する国内外の多くの人に福音の喜びが伝えられるようにさまざまな企画を検討し実行していただきます。みなさまのご協力をいただくこともあるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

*委員会等担当一覧表は3面へ

カトリック大阪高松教区本部事務局

本部事務局長：崔周永

事務局次長：野田正弘

四国カトリック会館

(旧高松司教区本部事務局は、四国カトリック会館と呼称する)

司教代理・館長：松浦信行

サクラ ファミリア

施設長：崔周永

地区長

姫路地区	ジャン・カレンガ・カペンデ
神戸地区	松永 敦
阪神地区	川邨 裕明
北摂地区	下瀬 智久
大阪北地区	長崎 壮
大阪南地区	春名 昌哉
岸和田地区	イポリト・ヴィタ
和歌山地区	ヘスス・マリア・モラレス
徳島地区	サワリムットウ・スティフェン
香川地区	松浦 信行
愛媛地区	川上 栄治
高知地区	岩崎 武

2024年度 小教区ブロック司牧人事表

地区	ブロック	小教区					地区	ブロック	小教区							
姫路地区	姫路西	網干・飾磨・相生・赤穂	共同	Fr.大久保武	協力	Fr.アンドレ・コレーン	大阪南地区	阿倍野	阿部野	主任	Fr.山本英明					
		姫路・佐用	主任	Fr.ジュドネ・トンバ・ディバ					大阪田辺・平野	主任	Fr.酒井淳	協力	Fr.中野正勝(平野)			
	姫路中	仁豊野	主任	Fr.ルドビカス・ゴーセン	協力	Fr.赤塚富夫		堺	堺・泉北・金剛・橋本	共同	Fr.高島政行、Fr.春名昌哉	協力	Sr.チャン・ティ・フエ			
		豊岡		教区管理						布施・枚岡	主任	Fr.上田憲				
姫路东	加古川	主任	Fr.ジャン・カレンガ・カペンデ					かわち	八尾	主任	Fr.崔周永					
神戸地区	神戸西	北須磨・垂水・洲本・明石	共同	Fr.高橋聡、Fr.ジェラルド・グイノ、Fr.カバレロ・アマドIII	協力	Fr.中川明	紀北地区	みなと	住之江・なみはや	主任	Fr.松浦謙	協力	Sr.戸村晴美			
		たかとり・兵庫・鈴蘭台・三田	共同	Fr.松永敦(担当：たかとり・兵庫)、Fr.安旻祐(担当：鈴蘭台)	協力	Fr.神田裕(担当：三田)			玉造	玉造	主任	Fr.ヌノ・リマ	助任	Fr.ボルメント・セサル		
	神戸東	神戸中央・住吉	共同	Fr.コンスタンシオ・コンスルタ、Fr.金台根、Fr.ブインガ・ブレイズ	協力	Fr.谷口幸紀		紀南地区	紀南	岬・泉南・紀の川	主任	Fr.イポリト・ヴィタ	協力	聖ザベリオ宣教会		
		六甲	主任	Fr.英隆一朗	助任	Fr.渡辺徹郎				協力	Fr.増井啓	岸和田・浜寺・和泉	共同	Fr.村田稔、Fr.ロムアルドゥス・ジュアン	協力	Fr.東研
阪神地区	阪神夙川	芦屋・甲子園	主任	Fr.川邨裕明					香川地区	讃	桜町・番町	担当	Fr.森一幸			
		夙川	主任	Fr.李昇倫							小豆島	担当	Fr.高山徹	協力	Fr.ヤピッカ・アントネッロ	
	阪神仁川	宝塚	主任	Fr.朴起徳						三本松	担当	Dn.西川康廣				
		仁川	主任	Fr.和越敏						坂出・池田	担当	Fr.イスマエル・ゴンザレス				
北摂地区	阪神尼崎	武庫之荘・園田	主任	Fr.山口武史	協力	Fr.トマス・ティアゴ(日本語研修)(武庫之荘)	徳島地区	西讃	丸亀・善通寺	担当	Fr.高山徹	協力	Fr.井原彰一			
		尼崎	主任	Fr.ジョヴァンニ・デリア					観音寺・伊予三島	担当	Fr.松浦信行					
	北摂西	池田	主任	Fr.中村克徳					高知地区	予	鳴門・徳島・阿南	担当	Fr.サワリムットウ・ステイフェン、Fr.申繁時	協力	Fr.乾盛男	
		日生中央	主任	Fr.畠基幸							中島町	主任	Fr.ヒラン・インディカ・ジャヤワルデナ	協力	Fr.池田純、Fr.硫黄隆二	
大坂地区	北摂東	高槻・茨木	主任	Fr.清川泰司	協力	Sr.橋本とも子(高槻)	協力	Sr.深瀬聖子(茨木)	愛媛地区	予	新居浜・西条	担当	Fr.フェルナンド・マヨラル			
		千里NT	主任	Fr.香山剛							今治	担当	Fr.郷文成			
	河	吹田	主任	Fr.井田明	助任	Fr.下瀬智久	助任	Fr.ヨハネス・クリストファロス・レンゴ		中予	松山	担当	Fr.ピーター・ジャ・レ	副担当	Fr.フランシス・プリン	
		梅田	大阪梅田・関目	共同	Fr.エリック・パウチスタ・デ・グスマン、Fr.オソリオ・フェルナンデス・アントニオ	協力	Fr.赤波江謙一、Sr.エンシソ・アルダナ・グロリア	南予			道後	担当	Fr.川上栄治			
北地	しろきた	今市・大東・門真	共同	Fr.長崎壮、Fr.タラン・スン・ニュー・イ、Fr.尹相鎬	協力	Fr.ハイメ・シスネロス	その他		八幡浜・宇和島	主任	Bp. 諏訪榮治郎					
	河	香里	主任	Fr.林和則	協力	Sr.高橋由美子		日本語研修		Fr.ホセ・ラモン(玉造)						
		枚方	主任	Fr.竹延真治	助任	Fr.梅崎隆一	日本語研修		Fr.鄭海成(堺)							
								教区協力		Fr.パオロ・スック						

*7月1日現在

カトリック大阪高松教区 委員会及び諸活動 (2024.6~2026.5)

Table listing various committees and activities of the Catholic Osaka Takamatsu Diocese, including the Pastoral Council, Social Welfare Committee, and various pastoral departments.

「聖年・万博委員会」設立

2025年「聖年」と同じく同年に開かれる大阪関西万博を見据えて教区としてさまざまな取り組みを検討すべく、委員会を設立した。

4月のアド・リミナの際にも教皇フランシスコと、バチカン福音宣教省に地元である大阪高松教区が出来る限りの協力をしている旨も伝えております。

2025年聖年テーマ 希望の巡礼者



バチカンのパピオンは「美は希望をもたらし」がテーマであり、



アド・リミナで教皇を訪問し挨拶を交わす

聖人を中心とした事業として、マリア大聖堂やサクラファミリアを利用した日本画家岡山聖虚作の二十六聖人聖画の展示会、二十六聖人巡礼路による「祈りと平和の道づく

区として「聖年」そして大阪関西万博に関連させたさまざまな企画を検討してまいります。現在、日本二十六聖人を中

世界は今 一人ひとりのいのちに向き合い 苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう

ガザから私たちにメッセージ 前編

2014年からパレスチナ自治区ガザ地区で、貧困家庭や子どもたちに支援物資を届ける活動をしているピラル・モハンマドさんと繋がる事ができた。ガザには通信会社が一つもなく、そこが破壊された。ネットワークがうまくつながらず時間を要したが、危険な中、何とか連絡がとれ、現地の様子を伝えていただいた。

イスラエル軍とハマスの軍事衝突は昨年10月に始まったが、その以前から戦争状態は続いていた。記憶に新しいのは2014年のイスラエル軍によるガザへの空爆。あれからこの7月で10年になる。無期限停戦が合意、実行されるまでには50日間を要し、多くの人のいのちが失われた。しかしガザ地区の封鎖は解除されないまま今に至る。人びとのくらしは脅かされたまま、今回はハマスによる攻撃への報復として、イスラエルのジェノサイドが始まり、市民のいのちが犠牲となつてい

「今、ここで何が起きているかをお伝えします。2023年10月7日に戦争が始まったわけではありませぬ。戦争をして私たちの身に降りかかった災いは、70年以上も何世代にもわたり続いています。相次ぐ戦争は私たちを抑圧し、世界から孤立させてきました。

今回の戦争は昨年10月7日に始まり、これまでと違い生きてきた中で最も激しい戦いです。225日間が経過し、今もお続いています。爆撃の激しさから、私は国境近くの村から家族を連れて去りました。私たちの村は常に爆撃と虐殺にさらされているからです。私たちは多くの人びとの中にいるほうが、安全だと思ひ、街の中心地に移動しました。爆撃は非常に激しく、あちこちで虐殺があり、住民の頭上で家屋が破壊されました。こどもたちが引き裂かれていたのが見えました。がれきの下から引つ張り出したそこには、頭部のない焼死体がありました。

この光景はフィクション映画でも見られないものでした。私たちの家は完全に破壊され、村は全滅しました。何千人もの人びとが行方不明になつており、私たちはいまだ彼らの運命がどうなったのか知り得ません。軍はガザのあらゆる地域に侵攻し、各地で大虐殺を引き起こしました。人びとはどこに隠れたら良いか分からず、逃げ廻っていました。軍は道路、水路、電気のネットワークを破壊し、病院を包囲し破壊しました。アル・シファ病院は、全世界の前で破壊された最大の証拠ですが、誰も何もしてきません。軍は都市に向かって進み、私たちは再び西部(海側)の、爆撃や寒さ、雨水をしのぐには十分ではないテントの中に避難しました。

私には生後6カ月の双子を含む4人の子どもがいます。彼らとの移動は困難を極めました。生まれて数年しかたつていない長男は、顔に鋭利な破片が当たり大怪我をしました。一人は恐怖で泣き、もう一人は空腹で泣き、もう一人は寒さで泣き、事態は日に増しに悪化しています。私たちは爆撃から逃れるために5回避難場所を移しました。直近まで居たテントは爆撃で燃えましたが、奇跡的に子どもたちと共に生き延びることができました。

(ピラルさんの支援活動について次号掲載予定)



破壊された家から避難するピラルさんと子どもたち

大阪大司教区 2023年度 教区本部会計収支計算書

[収入の部]

単位:円 (自2023年4月1日 至2024年3月31日)

Table with columns: 科目, 教区本部会計, (%), 一粒会会計, (%). Rows include 経常収入の部, 納付金収入, 小教区分担金, 特定献金収入, 一粒会献金収入, etc.

[支出の部]

Table with columns: 科目, 教区本部会計, (%), 一粒会会計, (%). Rows include 経常支出の部, 祭儀費, 諸委員会活動費, etc.

Main income and expense table with columns: 科目, 教区本部会計, (%), 一粒会会計, (%). Rows include 社会活動神戸センター, 社会福音化委員会, 災害対策委員会, etc.

令和6年能登半島地震

カリタスのとサポートセンターボランティア報告

つなぐ手と手がその一歩

5月上旬、能登半島震災のボランティアに行ってきた。短い間だったが、とても印象に残る体験ができた。

最初の日、羽咋ベースからシスターとスタッフが来られ、ともに輪島に向かった。幹線となっている道路はあちこち崩れており、補修をしてから通れる程度、対向車線も作れないため、輪島に向かう一方通行のみ。輪島が近づくにつれ、震災の傷跡の深さが目に飛び込んでくる。朝市の火事の現場、家々はつぶれたまま、ビルは傾き、時が止まったようにそのままである。

2日目、3日目、社会福祉協議会が実施しているボランティアに「カリタスのと」のメンバーとして参加、10時～15時までの作業を行った。主な作業は個人宅の後片付け。機械などが出来ない作業で、この需要が一番多い。いまだに復興がままならないのはこのためとのこと。たくさんの人的サポートがまだまだ必要だという。ボランティアとしてだけでなく、観光でもいい。ぜひ多くの方に能登に行ってもらいたい。

(文 聖パウロ会ブラザー 阿部光一)



カリタスのとのスタッフとボランティア参加メンバー



がれき回収作業



輪島市内の被災状況

カリタスのとサポートセンター ボランティア参加申込の詳細はこちら

堺教会 100周年記念ミサ 今、また「山が動く」

この日は、「主の昇天」の主日、イエスが復活したに上げられた、あとも完結したかのように見える出来事を祝う主日です。しかしながら、2000年前の当時、主の昇天は、地上に残された者、たとえば弟子たちにとっては、ここから新たなスタートだったことでしょう。信仰の証しを示す決意が問われる日であったかもしれない。その決意は2000年の時を経て、そして海を越え世界中へと、受け継がれ、広がってきた。100年どころか、途方もない歴史に圧倒される思いです。酒井司教が説教の中で語られた「私たちの決意は神の助けがあって成立する」という言葉は、そこに大きな安心をもたらします。



ここから始まり未来に希望を持って、信頼をもう一度

同時に、独りよがりの信仰に陥らない戒めにもなりま。さらに、昇天されるイエスが弟子たちに最後に言い与えた「しるし」についてのくだりは、とても印象深いものでした。私たちが山に向かつて「動け」と言っても動かない。けれど、祈りをもって人が動く山が動く、山があったところに教会が建つ。すなわち、私たちの堺教会は、100年の間、人が祈り人が動き、今ここにある。そして、私たちが受け継いでいく。それが「しるし」なのでしょう。百年という時の流れは、この社会にさまざまな変化を及ぼし、それらに呼応するかのようカトリック教会も感性豊かに動きつつあります。歴代の教皇のメッセージが私たちに強く深く語りかける通りです。今、あらためて祈ります。神の計らいの中で、先人たちの愛と信仰により築き上げられた、共同体の歩みに感謝いたします。ここ



◆特色 今年創立100周年を迎えましたが、1964年に三国ヶ丘へ移転して新しく聖堂を建築。聖堂の壁画、十字架の道行等全ての室内装飾のデザインは、ルイ・フランセン氏(ベルギーの芸術家)の作品です。60年の時を経てモザイクの壁画は美しく、十字架の道行の壁画は落ち着きのある色で造られています。◆おすすめの店 『居酒屋三国庵』(つとん)、そば、一品料理、美味しくて安いお店 三国ヶ丘駅ロータリー北側交番側 『桜珈琲』(コーヒーカーキ・パン) 教会から2分 『ジェラートの店』(Café) 教会から3分

◆ホームページ

◆設立年月日 1924年5月2日

◆信徒数 1394人

◆教会紹介

に結ばれる私たち一人ひとりが互いに支えあい、共同体にあっても、個々の社会生活にあっても、信仰を証しすることが出来ますように。「動け！」

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

ともに記念ミサを、ロビーで集合

西川康廣終身助祭

【プロフィール】

生年月日 1951年1月23日 福岡県大牟田市にて、4人兄弟姉妹の次男として生まれる。(趣味) 大工仕事 長崎聖ルドビコ神言神学院、中高小神学校を卒業後、名古屋神言神学院入学 70年 名古屋南山大学文学部哲学科中退 70～74年 兵庫県・住友電気工業株式会社勤務 75～89年 伝道師 オプレート司牧(伊丹教会・徳島教会) 75～77年 英知大学神学講座受講。 80年 フロントニア アポストリート ボランティア in カナダ・BC 82年 イスラエルで聖書学を学ぶ。 90～2006年 伝道師(高松司教区) カトリック中央協議会(聖書委員会常任委員・信徒使徒職委員会常任委員) 07年3月 高松教区・終身助祭叙階 本部事務局長に就任。 19年5月 三本松教会・霊性センター管理責任者。 24年4月 三本松教会担当・霊性センター管理者、現在に至る。



『神の歴史』(カレン・アイムストロング著、柏書房 5,800円税込) *30年程前出合った一冊の本。

西川康廣終身助祭から一冊

教区内の司祭が記憶に残る、また心に残った書籍を司祭紹介を兼ねて掲載。今回は、西川康廣終身助祭が担当。



イスラエルへ行けば、必ずエルサレムの全景が見渡せるオリブ山に立つ。この山に立てば、4000、3000、2000、1000年前、そして現代のエルサレムの歴史が見える。そして思うには、人類は何度戦を繰り返せば済むのかと、歴史を繰り返すことである。歴史は破壊と再生を繰り返す、戦の後新しい秩序を生み出すが、更に強力な武器を製造し、また破壊と再生を繰り返す、これが歴史である。人類は、神



の存在を信じるのは妄想に過ぎないのではないかと、葛藤しながら今日まで生き延びて来た。確かに、宗教は不安定な社会に安定をもたらす力とはなるが、外からの迫害と内からの分裂を乗り越えるための長い戦いの中で進歩を遂げた。ユダヤ民族の歴史は、迫害に遭いながらも、神の約束への絶対的な信頼と希望が、今日まで生き抜く力となった。唯一絶対の神を信じ、戦争への敗北から『神の死』を目の当たりにし、『神に未来はあるのか』と疑問を感じながらも他に頼れる力を見い出せずに、再度唯一の神に立ち帰る歴史、これは現代にも通じる話ではないだろうか。 次回は岩崎武神父(大阪高松教区)からの紹介です。

聞かせてください 神さまと出会った時のこと 〜エマオへの道で〜

第10回 和越敏神父 (仁川教会 コンベンツアル聖フランシスコ修道会)

1978年ベトナム北部ナムディン省の生まれ。ベトナム名は、ヨセフ・チャン・パン・ビン。2016年に帰化し、和越敏という名になった。厳しくも信仰に厚い両親の下で育つ。毎朝3時半に起こされ、教会に行き祈り、夜も教会で祈り、寝る前に家族で1時間お祈りをした。祈りの生活が、体にしみ込んでいる。最初の神様との出会いは、この祈りの生活にあったと思う。

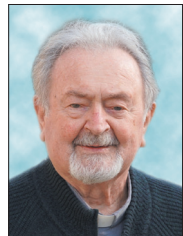
シスターの叔母2人から、毎回会うたび「神父にならなない？」と言われ続けていた。ハノイ大学日本語学科に進んだ後も、叔母たちの「神父にならなない？」は止まらず、カテドラル近くにある孤児院の院長である司祭を紹介され、指導を受ける。身寄りのない子どもや老人、重度の障がいのある子どもと関わる中で、イエス・キリストの姿に出会い、共に生きていこうと思った。大学卒業時、「お前を金持ちにさせたくない」と母に言われ、就職しないと決めた。孤児院で生活しながら、カテドラル周辺地区5千人の青年たちを指導し、教会活動に励んだ。

その頃、コンベンツアル聖フランシスコ会の先輩と出会った。「日本に来ないか」と誘われ、よくわからないまま、2001年10月、志願者として来日したが、ベトナムの教会とのあまりの違いに驚いた。ベトナムでは、500人も神学生がいたが、日本では、暗い雰囲気、建物の3〜4人だけ。正直、ショックだった。上智大学の聴講生となったが、日本語の勉強、特に漢字の読み方・書き方に非常に苦労した。神学院の中で孤独を感じ、故郷や孤児院のことを思い出したこともあり、自分が今日本にいる意味はあるのかと悩んだ。青年を指導していた時、自分は何でもできる人間だと思っていたが、その時は、自分の弱さを感じた。その無力感によって、神と出会った。過去を忘れ、ゼロからスタートしよう。神とともに歩んでいこう。自分なりに神の愛、神の慈しみを示そうと決心した。宣教の使命を感じたのもこの時。上智大学院進学後も、壁にぶつかることがあった。疲れ、た時は、隣のイグナチオ教会で座り、「もう疲れまじった。もう無理です」と

神に話しかけた。すると、サーッと疲れや無力感が消えさり、神の救いそのものを感じた。2006年に有期誓願、インマヌエルという修道生誓願、2011年3月に司祭叙階の恵みを受けた。私は世の終わりまでいつもあなた方と共にいる。(マタイ28章20節)

日本の教会で生きていくことは、実際に恐れも不安もある。しかし、神がいつも共にいてくださるならば、安心してすべてを神にゆだね、自分の弱さもそのままに生きることが出来る。司祭として宣教師としてコンベンツアル聖フランシスコ修道会の会員として、キリストの柔和、謙遜をもって、出会った人びとを見て、出会った人びとを見つめたいと思っている。フランシスコ会の霊性は、喜びそのもの。ベトナムでの青年活動をしていた時の情熱を忘れず、神との出会いの喜びを伝えることが私の使命。これからは、「インマヌエル」として、この日本で皆さんと共に信仰生活を送り、宣教活動し続けたいと思っている。お祈りとお同伴のほどをよろしくお願ひする。

【4月のお話より抜粋。サクラファミリアで偶数月に開催中】



1940年11月9日、イタリア生まれ。63年10月13日イタリア本部で司祭叙階。64年来日。66年71年泉佐野教会の助任司祭。神戸本部修道院の院長、本会管区長を数期務めた。74・89・2000年春木幼稚園園長、10年貝塚教会主任司祭と貝塚幼稚園園長。16歳、22年泉佐野教会主任司祭と泉佐野天使幼稚園園長。学

訃報

ピエル・ジョルジョ・マンニ神父(聖ザベリオ宣教会)は、2024年5月31日、急性心筋梗塞のため帰天。83歳。イタリア出身。

校法人ザビエル学園・理事長・日本カトリック幼児連盟会長を歴任。幼児教育の重要性を自ら示し、教職員育成にも尽力した。豊かな経験と機知に富む聡明さと、持ち前の明るさで多くの人の心をひきつけ、人びとの交わりを何よりの喜びと励みにして宣教師の使命を全うし、聖母訪問の祝日に主の御許に旅立った。

聖霊に動かされた画家

津田季穂(オブレート会修道士)とその弟子 雑賀公秀

戦中戦後に、鳴門や徳島の地に聖霊の恵みをもたらした隻眼の画家と呼ばれるオブレート会修道士とその弟子を紹介します。

画家の名前は津田季穂。彼が最初に鳴門を訪れた年、『小さき花―聖女小さきテレジアの自叙伝』に感銘を受けて翌年、関口教会(東京)で洗礼を受けます。たびたび訪れて住みつくようにもなった鳴門・徳島の地では、受洗前から伝道活動をしていくという彼に宿る力に惹かれて、多くの人がとが受洗に導かれ、その中から司祭や修道女も輩出されました(本紙4月号のダイヤモンド祝で紹介された硫黄隆二神父、乾盛夫神父もそのうちの二人です)。特に鳴門では彼を囲む集いが巡回教会で行われ、カトリック鳴門教会設立(1959年)へとつながっています。その後津田はカトリック修道士となりました。一方、雑賀公秀(192



津田季穂 (1899~1981)
獵銃で右目を撃たれたのち、画家を目指して日本美術院展に入選(1917年)。日本美術院解散後、放浪生活を送る。39年作家の稲垣足穂と親交を深め、47年鳴門絵画グループ「ベニウズ」に参加。以後59年にオブレート会修道士となる。

8(1985)は鳴門に生まれ、1944年16歳で土浦海軍航空隊に入隊。翌年には佐世保海軍防備隊で勤務した後、終戦後復員、翌46年のはじめごろ(17歳のとき)、鳴門の青年画家5人と共に絵画グループ「ベニウズ」を創立しました。直後の4月には東京高等師範学校(現筑波大学)に入学しますが、47年ごろ鳴門に滞在するようになった津田季穂との交流が始まり、会

員(実質は師)としてベニウズに迎え入れられます。雑賀さんは津田師の影響を受け、絵画制作を通してまっすぐ一途に、情熱的に、力強く神を探求し、また48年の受洗後はカトリック鳴門教会設立に大きく貢献しました。本年3月7・10日には鳴門市で、身近な人物・静物・風景を描いた雑賀さんの洋画遺作62点を展示する『ベニウズ創立者 雑賀公秀 遺作展』がベニウズ主催で

開催され、多くの人が身近なものの中に宿る「神」を感じていただく機会となり、ご遺族に代わって雑賀さんとの感動的な再会の場となりました。また9月12日には徳島市のギャラリイM&Mで、『見える自然を通して見えない神を伝えようとした』作品約40点を展示する「津田季穂展」が開催販売される予定です。両展覧会とも不思議な展開によって開催の運びとなり、「両氏の神の国を表現しようとした喜びの業、その魂を真に継承せよ」と神様から言われているように



雑賀公秀「自画像」

感じています。(文 八木和彦/画家 津田季穂の弟子・ベニウズ会員)

ひとりて悩まないで
〜私たちに聴かせてください〜
カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時〜午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。

大阪のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス・糖尿病内科
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャレン 松本信愛 神父
看護師 募集中
〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎072-729-2345
医療法人ガラシア会

プインガ・ブレイズ
神父(淨心会)の母、チンバマカヤさん80歳は6月17日コンゴ民主共和国で帰天。

来見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 (7月分) 8/1 (木) 18:30~20:00

講師 酒井俊弘補佐司教

場所 サクラ ファミリア / YouTube配信あり

主催 使徒職養成委員会

問 ☎06-6941-9700

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をさく

日時 8/26(月)18:00~19:30 (夜の部)・8/27(火) 10:30~12:00(昼の部)

お話 崔周永神父(八尾教会・サクラファミリア施設長)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「使徒言行録における初代教会の生い立ちとミッション」

日時 7/8(月)13:30~15:00 (4~7月開講)

和田幹男神父◆聖書研究講座「主のしもべイエス」

日時 7/10(水)10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 7/8(月)・7/22(月) 17:00~18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00~19:30

問 サクラ ファミリア

☎06-6225-8871

✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 9/1(日)~9/22(日) 4回 14:00~15:30

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 9/1(日)~9/22(日) 4回 14:00~16:00

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎078-851-2846

✉renraku@rokko-catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 7/25(木)・7/26(金) 10:00~15:30

指導 梁野治雄神父(7/25) 山内十束神父(7/26)

参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 7/19(金)17:00~ 7/20(土)15:30

指導 梁野治雄神父

参加費 ¥9,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水) 10:00~12:00

指導 梁野治雄神父

参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水) 10:00~12:00

指導 山内十束神父

参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家

☎0797-84-3111

講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00

場所 神戸学生青年センター

参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支線機構

問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

上映会「Teamその子」&「解離あるある」トーク◆解離性同一性障害(多重人格)を理解する

日時 8/3(土) 14:00~15:45

場所 サクラファミリア

参加費 無料・要申込

主催 カトリック中央協議会 子どもと女性の権利擁護のためのデスク

協力 日本カトリック女性団体連盟・NPO法人レジリエンス・ユニークワークス・シナピス

問 ✉teansonoko@unique.works

隻眼の画家・カトリック修道士 津田孝徳展

日時 9/12(木)~9/16(月・祝) 10:00~18:00(最終日17:00)

場所 ギャラリーM&M 徳島市南新町1-12-2 ☎088-655-3711

入場料 無料

主催 ベニウズ

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える 15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00~16:00

場所 大阪YCWセンター (またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com

HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ「エフファタ！」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフト captiOnline を使いパソコンまたはスマホで練習します。

日時 第2(水)13:00~15:00

場所 教区本部事務局 1階会議室

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い 守秘義務と分かち合い

いつ来てもウェルカム

当日キャンセルOK

日時 第3(日)14:00~16:00

場所 姫里集会所

参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで

問 ☎078-583-2525

✉yassan.yoshikawa@nifty.com

力障連大阪フレンドリー

◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のあるかた、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時 第2(火)13:30~15:00

場所 姫里集会所(奇数月) 北須磨教会(偶数月)

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324

✉072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

手話に興味をお持ちの方へ ◆聞こえない人も聞こえる人もボランティア会の見学にいらしてください

内容 聖書の学び・教区活動の手話通訳者派遣 ※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水) 10:00~14:00

場所 姫里集会所

主催 教区聴覚障がい者ボランティア会

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い

◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火)13:00~14:30

問 佐藤 ☎079-435-1157

行事等日程	
7月	
1月	福者ベトロ岐部司祭と187殉教者
4木	〔常任司教委員会〕
10水	10時 顧問会・役員委員会 13時半 司祭評議会
16火	〔臨時司教総会〕 (~19日迄)
8月	
4日	カンボジア教会の日の献金
6火	主の変容 平和旬間(~15日迄)
10土	青年と子どもの錬成会 (~12日迄)

名称変更
*4月1日より「福岡カトリック神学院」閉校に伴い「サン・スルピス司祭会」に変更

案内・報告
修道会休止中
「お告げのフランシスコ姉妹会 生野修道院」
問合せ先・本部修道院
☎03-3751-1230 (Sr吉林)

7月司教予定 (左記「行事等日程」以外)

- 7/7 小豆島教会高山右近祭(+S)
- 7/14 今治教会聖信式(+M)
- 7/21 徳島教会・阿南教会(+S)
- 7/22 愛光学園(+S)

+M=前田万葉大司教
+S=酒井俊弘補佐司教

【お詫び】
6月号6面 主日ミサ時間 変更(5月~10月末)
岬教会ではなく貝塚教会 8時30分→10時30分に変更
お詫びし訂正します。(広報委員会)

青年と子どもの錬成会

ありのままでええねん!
~神様からのプレゼント~

ええねん!

ええねん!

2024年 8月10日(土)▶8月12日(月・祝)

開催場所 **ヴェリタス城星学園** 大阪市中央区玉造2-23-26

- 参加費...6000円
- 募集人数...50人
- 対象...小学3年生~中学3年生
- 申込締切...7月26日(金)まで
- 申し込み...QRコードよりお申し込みください。 ※定員に達し次第、締切です。 詳細は別紙「申込み案内」をご覧ください。

お問い合わせ先: カトリック大阪高松大司教区 本部事務局 青少年司教委員会
メールアドレス: youth@osaka.catholic.jp 代表電話: 06-6941-9700 (平日9時~17時)
主催: カトリック大阪高松大司教区 青少年司教委員会

中島町教会では、長期に渡り、聖堂の耐震補強と、新司祭館の建設についての話し合いが行われてきました。が、ようやく工事が開始されることになりました。順調に進めば今年12月に工事完了の予定です。

教会の信徒がこの新しい出発に向けて取り組んでいる間に、大阪高松教区が誕生するという大きな出来事もありました。近頃は落ち着きを取り戻してきています。大阪高松教区として、広報活動はどうなるのだろうか、心配していましたが、これからは新しい形で、教会に関する話題を提案していただきたいと思います。

高知地区 江瀬雅哉